

ダ・ヴィンチ手術 保険適応

総合南東北病院が導入した手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を使った腹腔鏡下における胃や直腸の手術が保険適応となりました。

当院ではダ・ヴィンチ専用の手術台「トウルシステム7000dv」も東北で初めて導入しています。ダ・ヴィンチの内視鏡の動きに応じて手術台が動き、挿入した鉗子を抜かず安全に手術ができるため手術時間を短縮できます。

ダ・ヴィンチは米国製の医療ロボットで、患者さんの身体的・精神的負担が少ない低侵襲手術を目的に開発されました。患者さんの腹部数カ所に穴を開けて鉗子を挿入、医師が鮮明な3D画像を見ながら機械を操作し手術を行います。

当院では7月のダ・ヴィンチの手術運用開始以来、順調に手術を重ね手術件数は昨年12月20日現在で胃がん11症例、直腸がん14症例をかぞえます。胃と直腸の

手術は12月1日に施設基準が認定され、保険適応となりました。今後は保険適応範囲を泌尿器、肺などにも広げる方針で、実績をさらに積み上げていきます。

2月の医学健康講座

総合南東北病院の2月医学健康講座は2月15日(金)午後2時から同病院北棟1階NABEホールで開かれます。南東北医療クリニックの深谷保男院長(泌尿器科)・総合南東北病院院長代行)が「快適な生活を送るための泌尿器科の管理」と題し

て講演します。

入場料は無料です。送迎バスは郡山駅午後1時発、南東北医療クリニック前午後3時30分発をご利用ください。問い合わせは(一財)脳神経疾患研究所 法人本部広報担当 電話024(934)5708へ。

高齢者にバスの乗り方教室

福島交通

福島交通は昨年12月21日(金)に総合南東北病院北棟NABEホールで実施された12月医学健康講座の終了後、講座の参加者を対象に

路線バス利用について話す遠藤係長



「路線バスの乗り方教室」を開きました。

高齢者が通院や買い物などで外出する際に気軽に路線バスを利用してもらおうのが狙い。郡山支社乗合営業課の遠藤和孝係長が総合南東北病院を経由する福島交通の3つのバス路線について紹介しました。そのうえで、お得なバス用ICカード「NORUCA(ノルカ)」のサービスと利用法、郡山市が75歳以上の市民に実施している高齢者健康長寿サポート事業、高齢者運転免許証返納推進事業について説明しました。

脳の健康

精神科の薬について、「人格や人間性を変える怖い薬」という誤った考えを持っている方が案外多いのかもしれない。また、「薬には頼らず自分の力で治す」と頑固に服薬を拒否する方もいます。脳の細胞は多くの物質を産生し、それを利用して細胞同士の機能連携を図っています。薬はその物質に作用して、脳の一部の機能不全を修正しています。

例えてみれば、胃潰瘍の薬が胃酸の過剰な分泌を抑制して、胃潰瘍を治しているのと同じです。心や人格・人間性は脳の総合的な機能によって作り出されているもので、薬は脳の

一部の機能不全を修正しているにすぎず、脳全体の総合的な機能に影響を及ぼすものではありません。すなわち、薬によって心や人格・人間性が変化することはないのです。

多くの方が服用している抗不安薬、いわゆる「安定剤」は不安やイライラを抑制する働きを持っています。抗不安薬は脳の細胞の興奮を鎮める作用を持っているGABAという物質の働きを強化する作用があり、不安やイライラを抑制しています。自分でコントロールできない不安やイライラで苦しんでいる時には非常に有効に作用しますが、いたずらに長期間服薬して、「薬がないと

精神科の薬は人を変えるのか？

です。

うつ病の薬は抗うつ薬と呼ばれていますが、誰でもが元気になる薬ではありません。うつ病を治す薬です。うつ病では脳内のセロトニンやノルアドレナリンという物質が不足して、うつ状態に陥ってしまうと考えられています。抗うつ薬はそのセロ

トニンやノルアドレナリンの不足を修正して、うつ状態を治すものと考えられています。うつ状態は様々な原因(病気で出現しますが、どの場合も脳内に同じ状態が起こっているとは限りません。例えばノルアドレナリン不足になっている場合には、抗うつ薬は効果を発揮しません。最近、ノイローゼのうつ状態も「うつ病」と診断されて、抗うつ薬を処方されるが増えています。うつ病は改善しませんが、適切な診断が極めて重要となりますので、長くうつ状態が改善せず悩んでいる場合はご相談ください。

(総合南東北病院 精神神経センター長・渡邊義文)

この後、「NORUCA」のデモカードを使って講座参加者にバスの乗車体験をしてもらいました。

路線バスの乗り方教室は2月15日(金)の2月医学健康講座終了後にも開きます。午後3時から30分程度。